

**答**

休日夜間急患センターの外科診療体制については、平成24年7月の開設当初は日曜・祝日のみであったが、診療日を増やし、現在は土曜日夜間と、月2回の水曜日夜間にも診療を行い、体制の拡充を図ってきた。センターに従事することのできる市内の外科開業医が年々減少しているものの、西条市医師会の努力により、大学勤務医師の手配を行うことなどで、センターの外科診療体制を維持しているところである。

センター休診日の夜間の一次救急医療体制は、市内開業医及び二次救急医療機関による在宅当番医制により診療を実施しているが、一次医療体制を支える開業医が高齢化などで減少傾向にあること、また、二次救急医療機関も救急医療に従事する医師が不足していることから、診療を行う病院を市内で確保できない事態が発生している。その場合は、同じ二次医療圏である新居浜市の医療機関の協力を得て、救急患者の搬送及び診療を行っている状況であり、本市での医療機関及び医師の確

保が緊急の課題となっている。

本市では医師不足解消に向け、西条市医師確保奨学金貸付制度を設けており、利用者のうち3人が令和3年4月から指定医療機関で勤務を開始する予定である。また、県が実施する同様の制度利用者の医師配置が地域公立病院を中心に令和2年度から本格的に開始されるため、本市も指定医療機関への配置要望を行っている。医師確保については、本市だけでは解決が難しいため、今後も国や県への働きかけを行っていくとともに、さまざまな施策を利用し、関係機関との連携も図りながら、本市における医師確保の実現に努めたい。



休日・夜間の一次救急診療の中心を担うセンター

西条みらい  
クラブ

御 庄 秀 樹 議員



1 (一般質問)  
特定健康診査の受診率向上について

地域における健康増進を！

**問** 受診率向上には地域の健康づくり推進員による受診勧奨が重要と考えるが、どう取り組んでいるのか。

**答** 健康づくり推進員は、地域の健康づくりの担い手として委嘱しているので、活動の中で積極的に受診勧奨するよう働きかけたい。更に、地域の健康づくりについては、現在設立に向けて取り組んでいる地域自治組織も含めて、在り方を検討していきたい。

佐々木 充 議員



(一般質問)  
1 キャッシュレス化について  
2 起業型地域おこし協力隊について

スマホを活用できないか？  
市税の収納

**問** 市税などを納付しやすくするためには支払い方法の選択の幅を広げる必要がある。他市においても徐々に普及しているスマホ決済を導入する考えはないか。

**答** スマートフォンによる決済はコンビニや金融機関などの窓口に行かなくても納付が可能であり、市民サービスの向上につながることから、現在準備を進めているコンビニ収納と併せ令和2年度から導入する予定である。

真 鍋 頭 伸 議員



(一般質問)  
1 公共施設等総合管理計画について

公共建築物を削減して  
持続可能なまちづくりを！

**問** 「今後40年間で、公共建築物の延べ床面積20パーセント削減を目指す」との目標を掲げているが、40年後に必要とされる歳出額を、どのように見込んでいるのか。

**答** 今回掲げた指標は、将来の公共建築物の改修や更新に係る財政負担を、過去10年間の投資的経費と同程度に抑制することを目指しており、将来の歳出額は年平均約35億2千万円と試算している。なお、指標は人口や財政状況など社会情勢の変化に応じて見直す可能性がある。